

慰霊祭特集

Die Eiche ディ アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1 清和会第2ワールドナースング
ホーム 電話:047-461-0111 Fax:047-461-7010
<http://www.jdg-chiba.com>



20周年を迎える 協会主催 ドイツ軍人追悼慰霊祭

11月16日(日) ドイツ連邦共和国大使らを招いて 関係者多数で



千葉県日独協会

会長 宗宮 好和

習志野俘虜収容所は1915年から約5年間存在した。

1000人を超える兵士の大部分はこの地に西欧の音楽、スポーツ、食肉加工技術等を残して去っていったが、30人だけはそれが叶わなかった。その多くは当時世界的に猛威を振るったスペイン風邪のために斃れたからである。解放される日を間近にしていただけに、どんなに無念であったであろうか。木製の十字架だけが陸軍墓地に残され、これもいつか朽ちるにまかされた。

1955年11月

13日ドイツ連邦共和国

クロル駐日大使

が主催する慰霊碑の

除幕式が行われた。

なんと古い墓標は故

石崎申之氏らによつ

て献身的に守られて

いたのである。墓標

は黒御影石にかわり、

墓地も習志野霊園と



歴史を重ねて 慰霊祭に思う

して整備されて多くの参拝者を迎えることになった。

除幕式から40年たった1995年11月19日ドイツ国民哀悼の日に、ドイツクマン駐日大使をはじめ多数の日独関係者が参列して記念の追悼式典が開催された。そしてこの日の参列者を中心にして、翌年6月1日に、「千葉県日独協会」が設立されたのである。

今年はこの記念式典から数えて20回目の慰霊祭を迎える。11月16日当日にはフォン・ヴェアテルン駐日大使ほか多くの方々のご臨席をいただけるものと心待ちにしている。

私たちは異国に眠る方がたのご冥福を祈るとともに、地球上に平和の訪れんことを切に願いたいと思う。

多くの会員のご参列を!!

多くの会員のご参列をお待ちしています。

船橋市営習志野霊園は、JR津田沼駅北口から高津団地「北習志野駅」行きバスに乗車、「自衛隊前」で下車。徒歩約5分。霊園の☎047(465)5457

協会通信 Die Eiche は、この特集号以降の誌面を刷新し、4ページ、フルカラーになります。コラムを新設するなど内容の充実をはかります。

—ドイツ軍人追悼—
慰霊祭ものがたり

千葉県日独協会は、船橋市営習志野霊園に祀られているドイツ軍人の慰霊祭を 1995 年来一度も欠かさず執り行ってきた。日独の友好と平和を願って慰霊祭を始めた先人たちと、多くの皆さんのご支援の賜物である。今年の 20 周年を機に、薄れがちなこの歴史を改めて顧みて慰霊祭への思いを新たにしたい。

3 氏のリードで始まった

自衛隊第一空挺団にある旧陸軍墓地の墓標が木製から黒御影石にかわって 40 年が経とうとしていた 1995(平成 7)年、千葉の人びとで慰霊祭を、と立ち上がったのが船橋市在住の日大松戸歯学部教授だった加藤吉昭(故人)=初代協会会長と、千葉市稲毛区在住(当時)・(公財)日独協会顧問の花井清(84)、そして社会福祉法人・清和会理事長、林静誠(77)=写真右=の 3 氏だった。

林さんが語る。「この年に(西ドイツの)大使が慰霊碑に来るといので花井さんが手配をしていた。加藤さんは歯の噛み合わせの権威でドイツと交流が深い。父君が日米開戦の『ニイタカヤマノボレ』を打電した船橋の旧海軍無線塔の建設責任者で、ドイツの技士と一緒に作った人だった。」



慰霊祭にご臨席予定のドイツ連邦共和国大使
ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン博士
(Dr.Hans Carl von Werthern)



3 月、東京着任間もなく日本記者クラブで会見。日独両国の政治、経済に対する所見を述べた後、市民レベルの文化交流に触れて「日本には 60 の日独協会がある。来日した直後だが多くの招待状をいただいております、できるだけ多くの土地を訪ねたい。ドイツにも多くの日独協会がある。さらに、両国には 60 の姉妹都市の提携があり、中でも東京—ベルリン、大阪—ハンブルクが活発だ。個人的にはマラソンが大好き。歳でフルマラソンは無理になったが、東京のハーフマラソンに参加して多くの日本人と交流を深めたい」と。両国には共通点もあるが、差異が多いと大使は語り「日本人の考え方、物事の解決の仕方を学びたい」と、期待と意欲を披歴していた。

<1953 年 8 月 4 日、ビューデスハイム生まれ。61 歳。妻と三女。1973 年から 2 年の兵役を経て、メインツ大学で経済学、法学を専攻。1984 年、政治学博士号取得。2004-5 年、「日本におけるドイツ年」の外務省準備室長。在中国大使館公使、外務省中央局第一局長を歴任。(写真と略歴は大使館 HP より)

「僕とジャズのバンドを組んで楽しんでいた加藤さんの弟で獣医師の光昭さん(故人)が兄貴を手伝ってよといので、(慰霊祭開催) 実行委員長を引き受けました」という。この慰霊祭が翌 1996(平成 8)年、当協会の創設に繋がり、協会主催の慰霊祭が数えて 20 周年になる。林さんは当時、千葉県ライオンズクラブのガバナーや自衛隊協力会の常務理事をしていた。「父(清さん)は終戦後、空っぽになった騎兵隊兵舎の管理や多くの馬に餌をやったり面倒をみていた関係もあり、慰霊祭には自衛隊や市長ら関係者、各方面の人に声をかけました」(林さん)。東京の日独協会千葉在住者も名簿整理と動員に奔走し、自衛隊で行われた直会(なおらい)も盛大だった。



第 1 回の慰霊祭で(林さん提供)

まだ、いた“墓守”

習志野の旧陸軍墓地にあったドイツ兵の墓をめぐり、2人の元自衛隊員が初めて明かした証言がある。まず、そのお話しをお届けする。

長田康敏さん(82) =習志野市、当協会会員。写真右。「暑い



夏の夕方でした。私は空挺団の研究科にいたのですが、田中賢一さんという旧軍の騎兵隊の確か、大佐をしておられた方が科長でして『ボランティアをしないか』というんですね。私たちはいつも命令で、ボランティアだの、奉仕だのとは言わない。不思議に思っただけでいって、草がぼうぼうの所に鎌が何丁か置いてある。



田中さんが『草を刈ると、ドイツ人の墓がある』と。草の丈は1m以上はありましたかね。墓なんか見えない。田中さんが言うから私らは『おっー』ってんで、やりましたが、お墓が出てきた、出てきた。(墓が)ゴロゴロしていたなあ。その日は陽が落ちたんでお終い「翌日も夕方、外出前にウロウロしている奴が捕まるんですね。田中さんが『哀悼の気持ちがあるんなら、手伝えよ』と。15-6人はいましたかね。みんな、鎌を持って1週間ぐらいはかかった。田中さんは荒れ果てた墓地に我慢ならなかったのでしょうか。暑い日で、よく覚えています」

←荒れ果てたドイツ兵の墓地 (習志野市教委「特別史料展 資料から」)

ドイツ兵の「墓守」として、つとに知られているのが旧陸軍の少将で、戦後習志野の開拓に携わった石崎申之 (のぶゆき) 氏 (故人) と、子息で医師の満氏(81)=船橋市、当協会会員。親子は墓の清掃を続けながら、申之氏は朽ち果てた墓標に心を痛み、大使館に手紙を書き、整備を訴えた。昭和30年、戦後初の大使として来日したハンス・クロル博士が黒御影石の慰霊碑を建立し母国「国民哀悼の日」の同年11月13日に、盛大な除幕式を行った。長田さんの証言は、慰霊碑建立直前の様子を伝えていると思われる。

神谷数房さん(66) =東京都目黒区。1968(昭和43)年の入隊。朝霞で教育を受けて希望の第一空挺団に配



属された。「班長に連れられお墓の掃除に行きました。昭和44年の夏だった。

(日露戦争で捕虜となった)ロシア兵の墓地は草がすごかった。主義主張が違っても、国のために生命を捧げた人たちに『可哀想だ』と思いましたね。隊員は黙々と草をむしり、清掃しました。ドイツ兵の方は翌年に行ったようにも思

いますが、墓標ではなくて慰霊碑のようだったか。ロシア兵の墓と比べて、『(国の対応が違うナ)』と感じました」「上官が『ドイツは遺骨を收拾して帰ったが、ロシアの方はまだだ』と言っていました。『ドイツは、国として(英霊に対して)きちんとしているなあ』と改めて感じ入ったのを覚えています」。

石崎申之氏の手によるとされる「ドイツ兵の墓」では、墓碑は習志野霊園の建設で「1970(昭和45)年11月4日午前10時から移動式が行われ、大使館の2等書記官、デトリッヒ・シェーフア氏が立ち会った」とある。さらに手記は「墓碑の1m下方まで掘り下げたが、何もなかった」とも記されている。神谷証言による清掃の時期は、墓地移転1年前とみられる。また、遺骨に関して神谷氏の上官の話と、石崎氏の手記はほぼ一致する。神谷証言は、長田証言と併せて、自衛隊が折にふれてドイツ軍人などの墓地の清掃に当たっていたことを物語っている。

習志野霊園の開設

船橋市環境管理課によると、現在の市営習志野霊園は1971(昭和46)

年5月にオープンした。第二次世界大戦後放置されていた旧陸軍基地用

地を北習志野農業協同組合が墓地として利用していた。その後、同農協から墓地公園として整備するよう要望が市に出されていた。1969(昭和44)年3月、旧大蔵省から6000㎡(基地用地)が無償貸与されたのを機に、同市は隣接地を買収し総面積7955㎡を市営霊園として整備し、「旧日本軍人、第一次大戦で捕虜となったドイツ軍人、そして(日露戦争の)ロシア兵を祭祀し、一般市民が利用する」ことを目的に開園した。

Die Eiche

協会機関誌の題字は1997(平成9)年6月1日付け発行の第1号から“Die Eiche”(カシワ・英 oak)である。第3号(1997年10月1日付け)によると、1996年11月17日のドイツ軍人追悼慰霊祭で1本の若木が船

橋市営習志野霊園の慰霊碑前と、同市運動場公園に記念植樹された。

1936年のベルリン五輪・三段跳びで優勝した田島直人氏(1912-1990)に金メダルとともに授与された苗木の“子孫”。シュバルツバルト原産で受賞後、田島氏の母校・京都大学農学部へ植えられ、「オリンピック・オーク」と言われた。若木はその種子から採られたもので、田島麻夫人



カシワの贈呈=林さん提供

(1932年ロス五輪陸上選手)から贈られ、加藤吉昭・日独協会初代会長、林静誠・理事長両氏らから大橋和夫・船橋市長(当時)に渡された。カシ

ワは、ドイツでは古くから「もっと伸びよ」の意味がこめられており、その葉が「勝利」の褒章とされる。この木が植樹された翌97年に「アイへ」と命名された機関誌が発行されたわけだが、30cmほどだった若木はいま、高さ7m以上の樹影をみせている(今特集1面の題字脇にある写真参照)。

ベルリン五輪優勝者に授与されたカシワが残っているのは日本の他は、米コンプトン市(走り高跳び優勝者、C・ジョンソン)と、フィラデルフィア市(800m 優勝者 J・ウッドラフ)のみである、と記されている(加藤、林両氏による大橋船橋市長への文書=1996.9.16)。

◆各地の日独協会 機関誌(会報)の題字◆

| | | | |
|--------------|--------------------|---------|--------------------|
| (公財)日独協会(東京) | Die Brücke (かけ橋) | 横浜日独協会 | Der Hafen (港) |
| 仙台日独協会 | Guten Tag (こんにちは) | 湘南日独協会 | Der Wind (風) |
| とちぎ日独協会 | KASTANIEN (とち、栗の木) | 名古屋日独協会 | Bulletin (報告書) |
| ぐんま日独協会 | Heimat (故郷) | 西日本日独協会 | Jahresbericht (年報) |

8世紀のドイツ・ヘッセン地方のゲルマン人は雷神(ドナー)が宿る木としてカシワを崇めていた。キリスト教布教のボニファティウスがこの「雷神のオーク」を切り倒し、ゲルマンの神の無力さをみせつけて人びとが古来の信仰を捨て、キリスト教を受け入れるようにし向けたといわれる(坂井榮八郎著「ドイツの歴史百話」)。カシワはドイツ人にとって、それほどに思い入れの深い木である。

◇これからの催し◇

| 催しもの | 開催日 | 時間 | 場 所 | 内 容 など |
|--------------------------------------|-------|--------|----------------|--|
| 「むかし苦労した(!?) ドイツ語 やり直して みませんか」 | 11/10 | 18:10- | 船橋中央公民館 | 講師; 岡村三郎・千葉県日独協会理事、早稲田大学国際学術院教授、元NHKTVドイツ語講師/童話Der Löwe Leopold (Reiner Kunze作)を読む。必要に応じて、初級文法も。/参加費用(教材込); 会員¥3500、一般¥4000、学生¥2000/申し込み先; ☎ 080-4463-2609 E-mail: info@jdg-chiba.com 締切は11/3(月) 但し、定員(40人)になり次第締め切る |
| | 11/17 | 20:10 | ☎ 047-434-5551 | |
| | 12/1 | 以下、 | JR/京成船橋駅から南口 | |
| | 12/8 | 同じ | から徒歩5~7分。 | |
| | 12/15 | | | |

編集後記

この特集号は、千葉県日独協会が主催する「ドイツ軍人追悼慰霊祭」の20周年を記念して発行するものです。習志野のドイツ人俘虜たちと慰霊碑をめぐる記録は習志野市委員会の「特別史料展『ドイツ兵士の見た NARASHINO』(2000年1月)と、同「ドイツ兵士の見たニッポン」(2001年12月)に詳しい。今回も大変、お世話になった。私たちはこの「特集」で、新しい発見が少しでもないか、と努めた。しかし、流れ去った「時の壁」は厚い。関係者の「記録」と「記憶」が残るうちに、さらなる情報とご助言を寄せていただきたいと思います。(M.T)